

県委託事業 2018年版 地域の療養情報 おきなわがんサポートハンドブック

第8版目となる2018年版おきなわがんサポートハンドブックは「がんと診断されたときからの行動支援」をコンセプトに、大幅な改訂を行う。

<2017年版からの主な変更案>

○より早いタイミングでの本誌活用に配慮

- ・告知間もないなど、がんを受容できない場合に配慮し、表紙タイトルから【患者必携】を削除。
- ・告知後から知ってほしい情報が、ひと目で確認できる「がんと言われたときに役立つヒント10」を新掲載。
- ・治療開始前に役立つ情報として、各治療法や妊娠の可能性(妊孕性温存)を新掲載。
- ・小児がんの診療施設を新掲載。拠点病院の紹介は従来の行政的な視点から、診療に直結する情報に重きを置き、適切な病院にたどり着くことを後押し。

○対面相談につなげるツールを意識

- ・相談窓口の存在を広く伝えるため、がん相談センターの情報を【第2部】から【第1部】(1)に移動。
- ・読者(患者・患者関係者)に向けて、医療者と積極的にコミュニケーションをとることを提案。

○診療早期に医師から患者へ 医師の活用促進

- ・医師が説明とともに患者へ手渡すことを促進するため、従来の制度などの情報に加え、治療方法などの医師が使えるコンテンツを新たに掲載。

○生活者としての患者に役立つ情報の充実

- ・「治療を続けながら働きたい」に分類していた『外見ケア』を、新掲載の『さまざまな症状への対応』も含む新コンテンツ「自分らしく毎日を過ごしたい」に移動。
- ・「治療を続けながら働きたい」を「治療と仕事」に変え、『仕事を辞めて治療に専念したい』を新掲載。『治療を受けながら働きたい』との2本立て展開。

骨子案

表紙

表 2

がんや療養生活について詳しく知るには(がんになったら手に取るガイド案内)

綴じ込み概要版「がんと言われたら」…8P

- (1)表紙やメッセージ (外 1 面)
- (2)がん治療の見通し (中 2 面)
- (3)がんと言われたとき すぐに役立つヒント 10(内 4 面)
- (4)不安を受け止めるには (外 1 面)

内扉…1P

はじめに…2P

もくじ…4P

第 1 部 納得して治療を受けたい (扉・リード) …3P

1. がんについて相談したい…3P

- (1)がん相談支援センター
- (2)沖縄県医療安全相談センター

2. 治療について知る…4P

- (1)標準治療と科学的根拠(エビデンス)
- (2)臨床試験
- (3)その他の治療(科学的根拠を有する免疫療養/ゲノム医療)
- (4)補完代替療法
- (5)妊娠の可能性を残す (妊孕性温存療法)

3. 情報を集める…6P

- (1)病名と病期
- (2)主治医の説明を聞く
- (3)セカンドオピニオン
- (4)セカンドオピニオン実施施設
- (5)書籍とインターネットで情報をさがす

4. 県内の医療体制…4P

- (1)がん診療連携拠点病院および地域がん診療病院
- (2)がん診療を行なっている専門医療機関
- (3)小児がんの診療病院

第2部 よりよい療養生活を送るために（扉・リード）…3P

1. 痛さやつらさを和らげたい…3P

- (1) 緩和ケア外来・緩和ケア病棟(ホスピス)
- (2) がんの終末期医療を担う医療機関
- (3) がん終末期患者の在宅療養の相談
- (4) グリーフケア

2. 同じ病気の人のお話を聞いてみたい…10P

- (1) 患者会
- (2) 患者支援団体
- (3) 患者サロン
- (4) 沖縄県地域統括相談支援センター(がんピアサポート相談室)

3. 自分らしく毎日を過ごしたい…3P

- (1) 外見ケア
- (2) さまざまな症状への対応(だるさ、食欲不振、便秘・下痢)

4. 自宅で療養生活を続けたい…4P

- (1) 訪問診療
- (2) 訪問看護
- (3) 介護保険
- (4) 福祉用具・介護用品の貸与
- (5) 介護タクシー
- (6) 高齢者の相談窓口(地域包括支援センター)
- (7) ファミリーサポートセンター

5. 子どもの療養を支えたい…5P

- (1) 入院中の教育支援、復帰支援
- (2) ファミリーハウス
- (3) 入院中のきょうだい支援
- (4) 退院後およびAYA世代に関する相談
- (5) 養育支援訪問事業
- (6) 一時預かり事業、病児・病後児保育事業

第3部 お金のことについて（扉・リード）…3P

1. 医療費の負担を減らしたい…12P

- (1) 高額療養費制度
- (2) 高額療養費限度額適用認定証

- (3) 標準負担額減額認定証
- (4) 高額療養費貸付制度
- (5) 高額医療・高額介護合算制度
- (6) 確定申告による医療費等の控除
- (7) その他の制度

2. 治療と仕事…7P

- ・ 治療を受けながら働きたい…6P
 - (1) 労働問題全般についての相談
 - (2) 働く人の「こころ」と「からだ」の健康相談
 - (3) 生活から就職までの総合相談
 - (4) がん等による長期療養者への就職支援
 - (5) 医療機関での就労相談
 - (6) 女性の就業相談、仕事と子育ての両立などの相談
 - (7) 働くがん患者の支援団体、冊子

- ・ 仕事を辞めて治療に専念したい…1P
 - (1) 退職後の医療保険の変更
 - (2) 失業手当(基本手当)の受給延長

3. 家庭の状況に合う支援を受けたい…3P

- (1) 傷病手当金
- (2) ひとり親家庭等医療費助成制度
- (3) 一部負担金の減免制度
- (4) 生活保護
- (5) 生活福祉資金貸付制度

4. 離島に住む人向けの制度を知りたい…1P

- (1) がん治療の渡航費助成
- (2) 離島・へき地のがん患者等の宿泊支援

5. 障害についての支援を受けたい…2P

- (1) 障害年金
- (2) 障害手当金(厚生年金)、障害一時金(共済年金)
- (3) 身体障害者手帳

6. 子ども向けの制度を知りたい…3P

- (1) 小児慢性特定疾病医療費助成制度

- (2) 特別児童扶養手当
- (3) 障害児福祉手当
- (4) その他の制度

問い合わせ一覧（扉・本文）…4P

ノート欄…5P

- 私のメモ（質問したいこと、伝えたいこと）
- 面談にのぞむときの質問集
- がんになったら大事にしたいこと

体験談コラム…5P

- 闘病仲間
- 思いがけない病気になって
- 私を支えてくれたもの
- 自分の病気を子どもに伝える
- 仕事と、子育てと、乳がんの治療

あとがき…1P

奥付…1P

表 3

がん対策情報センター各種がんシリーズ冊子案内

表 4（総頁数：112 頁以内）

編集員

医療ソーシャルワーカー	仲宗根 るみ(北部地区医師会病院)
訪問看護認定看護師・所長	宮城 愛子(訪問看護ステーションはえばる)
社会保険労務士	中島 隆史(オフコース障害年金プラザ)
社会保険労務士	金城 由紀子(人財マネジメントオフィス・PDCA)
がんピアサポーター・地域統括相談員	西村 克敏(第5期養成講座修了生)
がんピアサポーター	馬場 恵(第5期養成講座修了生)
外来化学療法室専任医師	高橋 秀徳(琉大病院 地域医療部)
緩和ケアセンター看護師	伊波 華(琉大病院 看護部)
がんセンター長	増田 昌人(琉大病院 がんセンター)
事務	又吉 未央(琉大病院 がんセンター)
オブザーバー	荻堂 麻紀子(沖縄県保健医療部健康長寿課)

がん専門医に学ぶ 医師とのコミュニケーション 実施報告書

平成 29 年度沖縄県がん患者等支援事業

●事業概要

がんについての有効な情報提供に関する取り組みとして、地域の患者会や関係者と連携し、講演会「がん専門医に学ぶ 医師とのコミュニケーション」を開催した。講演会終了後は医師による個別がん相談を行った。

●実施概要

・日時

平成 29 年 9 月 9 日（土）午後 7 時～9 時

・会場

宮古島市立城辺図書館

・参加数

聴講 21 人 相談 1 人

・内容

講演会と相談会

・目的

がん患者やその家族等、情報取得者の視点を踏まえ、適切な情報選定及び有効な情報提供に関する取り組みを行う。

・主催等

共催：沖縄県がん患者等支援事業 宮古島市立城辺図書館

協力：ゆうかぎの会（離島圏におけるがん患者支援を考える会）

・広報手段

告知チラシ・ポスターの配布、マスコミ各社への呼びかけ

●プログラム

時刻	時間	内容
19:00-19:05	5分	開催あいさつ 琉球大学医学部附属病院 がんセンター がんセンター長 増田 昌人
19:05-19:10	5分	がん情報コーナーの使い方と図書館サービス 城辺図書館 館長補佐 本村 博信
19:10-19:50	40分	がん治療における医師とのコミュニケーションのとりかた 琉球大学医学部附属病院 地域医療部 特命助教 高橋 秀徳
19:50-20:00	10分	質疑応答 閉会
20:00-21:00	60分	医師による個別がん相談会 増田 昌人 高橋 秀徳

●講師

名前	所属	担当
高橋 秀徳	琉球大学医学部附属病院 地域医療部 特命助教 がんセンター外来化学療法室専任医師	講話 相談対応

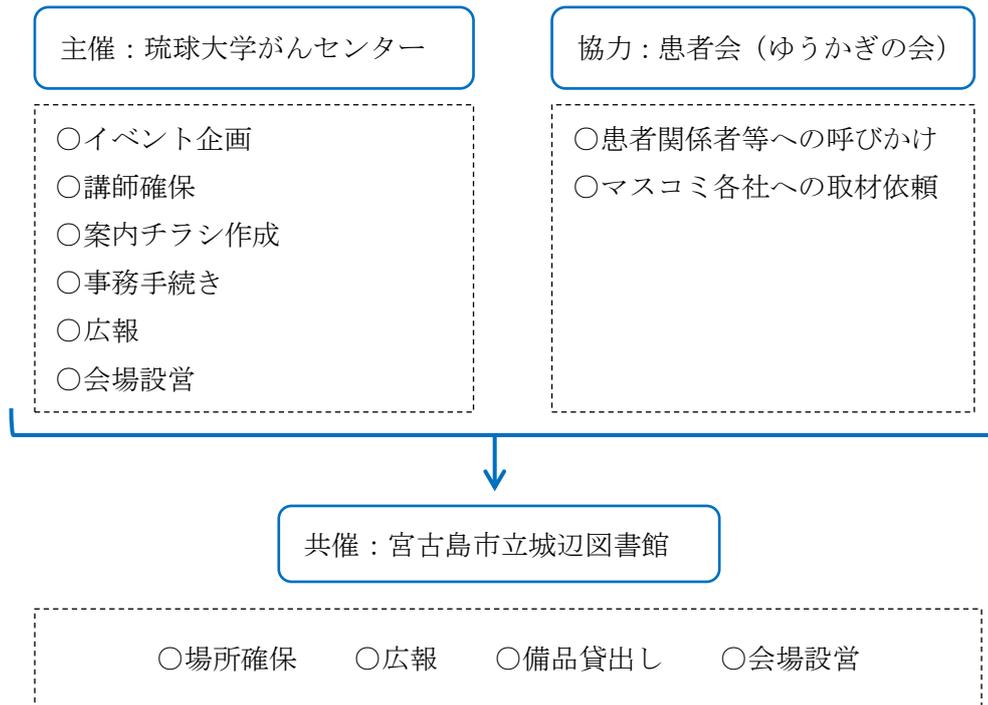
●スタッフ

名前	所属	担当
増田 昌人	琉球大学医学部附属病院 がんセンター センター長	責任者・司会進行 相談対応
又吉 未央	琉球大学医学部附属病院 がんセンター	事務全般

●協力

名前	所属	担当
又吉 察	宮古島市教育委員会 生涯学習部 城辺図書館 館長補佐	会場設営
本村 博信	宮古島市教育委員会 生涯学習部 城辺図書館 館長補佐	施設説明
真栄里 隆代	ゆうかぎの会 会長	広報

●地域関係者との協働（城辺図書館／患者会）



●チラシ配布先

病院（2）

沖縄県立宮古病院・宮古徳洲会病院

社協（1）

宮古島市社会福祉協議会

薬局（3）

オリーブ薬局 病院前薬局・たいら薬局・くがに薬局

保健所/保健センター（3）

宮古保健所・平良保健センター・下地保健福祉センター

公民館（8）

宮古島市中央公民館・城辺公民館・下地公民館・伊良部公民館・上野公民館・久松地区公民館・下崎地区公民館・西原地区公民館

診療所（10）

池村内科医院・うむやすみやあす ん診療所・おおはらクリニック・きしもと内科医院・下地内科医院・下地診療所・たいら内科・比嘉内科胃腸科医院・Dr.ゴン診療所・砂川内科医院

●新聞紹介

宮古毎日新聞 9/9 (土)

1955年9月21日第3種郵便物認可

まいにち伝言板

・きよの催し・お知らせ
・10円玉コーナーほか

〈受付〉
ワイド企画
月～金曜日 9:00～17:00
☎ 72-6822
FAX 72-3164 (24時間)

宮古毎日新聞社
土・日曜日 9:00～17:00
☎ 72-2343
FAX 72-3733 (24時間)

ひるば

きよの催し

▼「救急の日」のイベント
(午後2時・マックスパ
リュ宮古南店) 問い合わせ
市消防本部警防課(7
2・0943)

▼依存症を知るセミナー
n宮古島(午後1時30分・
市中央公民館) 随視聴覚

きよの催し

▼宮古特別支援学校PTA
夏祭り「すみ祭りが」宮特サ
マフエスタ(午後6時
30分・同校運動場) 問い合
わせ 同校・仲本(72・
5117)

▼がん専門医に学ぶ医師と
のコミュニケーション(午
後7時開演・城辺図書館視
聴覚室) 問い合わせ 城辺
公民館(77・8813)

いープログラム

9月14日(木)、28日(木)
午後7時～8時 宮古合同
庁舎5階宮古教育事務所研
修室 テーマは14日「休職
活動・お手伝い」、28日「生
活習慣・睡眠」。内容は子
育てやしつけについて話し
合ったり、交流しながら学
び合うワークショップ。問
い合わせ 宮古教育事務

こよみ

【9日・土】◎重陽の節句
◎救急の日◎救急医療週間

宮古新報 9/9 (土)

報 2017年(平成29年)9月9日 土曜日 (6)

行事・催し物・お知らせ

こよみ

▽菊の節句、重陽の節句
▽救急の日▽世界占いの日
▽吹き戻しの日▽手巻寿司
の日▽ロールケーキの日▽
栗きんとんの日▽食べもの
を大切にする日▽温泉の日
▽救急医療週間(9日)▽
下水汚泥資源利用旬間(9
10日)▽建築物防災指導週
間(11日)▽印刷旬間▽宇
由月間▽オゾン層保護対策
推進月間▽バス利用促進月
間▽がん制圧月間▽健康増
進普及月間▽食生活改善普
及運動▽障害者雇用促進月
間▽知的障害福祉月間▽全
国労働衛生週間準備期間▽
船員労働安全衛生月間▽作
業環境測定評価推進運動▽
粉じん障害防止総合対策強

お知らせ

★がん専門医に学ぶ医師
とのコミュニケーション
(きよ) 9日午後7時、
城辺図書館。講師は琉球大
学医学部附属病院地域医療
部の高橋秀徳氏。希望者は
個別相談あり。同館カウ
ンターか電話(77・8813)
受付。定員20人。先着順。
問い合わせは琉大病院がん
センター(0988・8095・
1374)。

新報

時・きよぬふから倉)
◆伊良部地区▽新舞踊講
座(午後7時・伊良部公民
館)
◆多良間村▽書道教室
(午前9時・村立図書館)

●開催風景

・会場外観



・がん支援コーナー



・視聴覚室



・開会あいさつ



・図書館からのお知らせ



・講演会 高橋講師



・講演会 高橋講師



・来場者



開

1955年9月21日第3種郵便物認可



高橋氏の講話に聞き入る来場者=9日、市立城辺図書館

琉球大学医学部付属病院「7年度沖縄県がん患者等支援センター」主催の「2011 援事業」がん専門医に学ぶ

医師と目標共有重要

高橋琉大付属病院医師 がん患者支援で講話

医師とのコミュニケーションが9日、市立城辺図書館で開かれた。琉球大学医学部付属病院地域医療部がんセンター外来化学療法室主任医師の高橋秀徳氏が講師を務め、がん治療を行う上で医師と患者が目標を共有することの重要性などを語った。



高橋秀徳氏

「医師とがん患者で見ていくところが違つてお互いに理解できない」と訴える高橋氏は、がん患者が自分の望む治療を行つてもらふために必要なこととして、

①医師の頭の中(考えた)を知る②医師が目標を共有する③の点を挙げる。手術や抗がん剤治療でも治すことのできないがんがあるとして、長く生きることを生活の質を低下させない

いこのまじりを重視することもある。本人の意向か、患者と医師が目標を共有して適切な治療法をがでることもあつたと語った。「医師は病気が見えない。患者が思いを伝えないと医師には分からない

会場には約20人が来場し、高橋氏の講話に聞き入っていた。

まもる君も登場 踊りの輪広がる

宮古特別支援学校(佐和田校長)は9日、同校でサマーフェスタを開催した。小、中、高等部の児童生徒がカラオケや盆踊りで夏の夜を満喫した。地域住民も大勢参加し交流を深めた。

生徒会長の上地葉菜さんが「サマーフェスタを始めます」と元気に宣言すると、符候から駆け付けたという「草田島まもる君」が登場。自身の歌に合わせて特設やぐらの上で踊ると、参加者たちはちようちんの下で踊りと手拍子の輪を広げた。



グラウンドの一角には屋台を設置。参加者たちは、踊り疲れると焼きそばや焼きたまごで腹ごしらえ。踊りの掛け声でなつたのは、たつぷりと潤

●全体総括

①成果と課題

「図書館でまるごと一日『がん』のこと」（石垣市立図書館）」に引き続き、2回目となる図書館でのイベント開催である。会場となった宮古島市立城辺図書館に、当センターが選書したがん関連図書が貸し出されたことをきっかけに、市中心部から離れた城辺地区での開催となった。がん関連図書の活用と絡めたイベント実施は、昨年度から検討していた計画のひとつであるが、市の中心部を離れての開催は他地域でも行ったことがなく、集客に不安があった。しかし図書館の全面的な協力のもと会場設営や広報が進められ、地域患者会の呼びかけもあり、定員 20 人に対し 21 人が来場して講演会を聴講した。

講演内容はクイズ形式も含まれており、会場一体で学ぶ雰囲気の中進行した。納得してがん治療を進めるうえで患者さんの希望は重要で、インフォームド・コンセントを進めるためには、患者と医師がコミュニケーションを重ねていくことが求められること、そのために医師の考えを理解しようと努め、両者が同じ方向を見ながらがん治療と向き合うことが大事であることなどが伝えられ、難しく感じられる医療用語（専門用語）もわかりやすく解説された。講演終了後は活発な質疑応答が交わされ、幕を閉じた。個別相談会は 1 名の利用にとどまった。

課題としてはスタッフの人手不足、個別相談に適した場所の確保、講演時間延長が挙げられる。同日、宮古島市で開催していた地域統括相談支援センターのイベントと重ねて企画したことでスタッフ要請が困難になり、1 人体制で進行したものの、結果としてマスクミ対応が後手にまわるなどした。個別相談については、講演会場から離れた閲覧室を準備したものの、オープンスペースであったことから相談者のプライバシーに十分に配慮できなかった。講演時間については、講演後の質疑応答が終わった時点で時刻は 20 時半を過ぎており、実質的な相談時間は 20 分程度であった。これら課題のうち個別相談については、プライバシー保護の観点から、会場内に個室が確保できない場合は今後開催しないことも検討したい。

②今後の展望

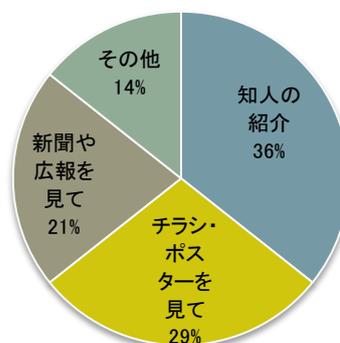
大人の利用が少ないと聞いていた城辺図書館だが、当日は定員を越える来場があった。地域住民に向けて情報を発信したいという図書館側の意向も伺っており、同様のニーズは他施設でもあると推測される。地域住民が親しみをもつ図書館との共催は、本事業においても来場のしやすさや広報の面からプラスに作用し、双方にメリットがある。今後がん関連図書をハブとして、図書の活用推進と絡めた展開を企画検討したい。

聴講者は女性が目立つが、30代・40代の参加は少ない。多忙な世代は、病院を訪れたときにはがんのステージが進行しているケースも少なくない。さらに離島は本島への渡航費も加わり、治療継続ともなう患者の経済的負担が非常に大きい。離島へき地を皮切りに、就労世代・子育て世代ががんになった場合にスポットを当て「お金」「仕事」などを切り口に、若い人たちの“もしも”に備えた内容も検討の必要がある。

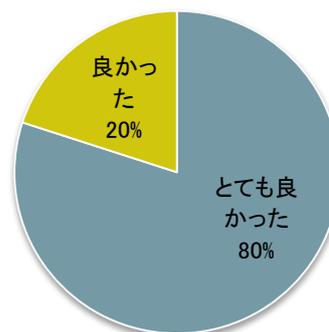
がん専門医に学ぶ 医師とのコミュニケーション アンケート

回収数
15 / 21

1. 本日の講演会をどこでお知りになりましたか？	
知人の紹介	5
チラシ・ポスターを見て	4
新聞や広報を見て	3
その他	2
無選択	1
総計	15



2. 講習会に参加して、良かったと思いますか？	
とても良かった	12
良かった	3
総計	15



3. 講演会に参加する前に、本日のテーマ「医師とのコミュニケーション」にどんな悩みや印象をお持ちでしたか？

話しにくい。時間をとるのが気になって話しづらい。直接話すことは宮古病院でもむづかしい。間に看護師が入る？
どんな話を聞かせてもらえるのかと思いました。
はっきりしたイメージはなかった。
やはりそのようなデリケートな問題は誰でもかかえうる問題なのかと。
医師から今の自分の症状を聞き出すか。また応えてくれるか。
医師に話すのは億劫だと思っていた。ちゃんと伝えることが大事だと思った。
何を聞けば良いか、聞いても良くわからないのでは？
外来で受診時、患者の顔も見ず、パソコンに向かい話しが出来ない先生方にどのように話しかければ良いのかなあとと思いました。主治医の選択によって病気も良くなると思いました。
今まで医師に叱られたりしたことがたくさんあり、「話しできない人たち」のイメージがありました。家族のこ

とは相談したりしましたが、なんだかねえ…という感じがありました。
細かいことや気持ちを主治医に相談しにくいなあと思っていました。
特になし
特にもっていませんでしたが、先生に話す勇氣、本音を伝えることの大切さ、それによってよりよい医療行為・充実した医療が受けられることわかり、ぜひピアの立場としても伝えたいです。

4. 講演会に参加してみてどうでしたか？(講演前と講演後の変化など)

なるべく話すようにしたいです。相談員がいるという情報がありました。相談員と話してつなげてもらえたら(同席するなど)コミュニケーションはしやすくなると思います。
治療とQOL(緩和ケア)の並行が、医師のしている視点ということがわかりました。病気に限らずQOLの維持向上は大切だと思いました。病気への認識、向き合い方など人生観というか…いろいろと考えさせられました。普段から病気の質を高める生き方をしたいと思いました。
お互いの立場によって視点や受け取り方が違うことを質問コーナーを通して実感できました。医師の視点がなんとなくわかったような気がしてよかったです。ホッとしました。
とてもよかったです。
医者と自分たちとの考え(治療・生活)に違いがあることがわかって良かった。
一度がんに罹ったら、いつもバクダンを抱えていると思いましたが、生きる勇氣がわきました。いつがんになっても、自分の生きる自信につながりました。
遠慮せずに何でも話しをし、相談して自分の気持ちをしっかり伝えていくことが大事なことだと感じました。
参加者の皆さんが興味津々に聞き入っていた。
初めて聞く言葉や医師の頭の中を…目からウロコもありました。上手く医師に自分の思いを伝えることが大事だな〜と少しずつでも伝えられたらいいなあと思う。
親身にいろいろ伝えたいという気持ちがよく伝わってきました。ありがとうございました。
病に対してどう向き合うかとの話しや、医師への思いをどうつなげるかを考えられました。
普段ドクターが思っていることを具体的に知れて、今までより身近に感じることができました。

5. 今後、改善した方がよい項目があればご意見をお願いします。

(日程・時間)

(開催場所)

今回通りで良いと思います。	とっても良かったです。
日曜日の午後でもよいのでは。	もう少し広い場所。広報活動してほしい。
	少しわかりにくかったかなと。

(講演会・質疑応答)

(その他)

わかりやすく良かったです。ありがとうございます。	マスコミに映るかが気になります。
気軽に質問できてよかった。	資料として残せる情報があればスライドを資料化してもらいたいです。